

琵琶湖漁港内のオオクチバスの産卵状況と釣獲駆除 (アユの友釣りならぬバスの敵釣り-2)

山本充孝 (滋賀県立琵琶湖博物館)

はじめに

第七回「外来魚情報交換会」において、産卵して卵を保護しているオオクチバスの雄親が卵を捕食するために近づいてきたブルーギルを攻撃する性質を利用した捕獲方法を紹介した。その際は誘い寄せるための^{おとり}餌として生きたブルーギルを用い、滋賀県水産試験場の港湾で実施したが、今回は実用性を考えて様々な場所で市販のブルーギル型のルアーを用いた釣獲実験を試みた。また、あわせて琵琶湖のいろいろな漁港でオオクチバスの産卵状況を調査したので紹介する。

調査内容

2016年4月～7月に琵琶湖北湖の西岸の14の漁港において港内の段丘状の段差底面に作られたオオクチバスの産卵床の出現状況を定期的に調べた。また、オオクチバス親魚を捕獲するため、ブルーギル型ルアーを産卵床付近に提示してオオクチバスからの攻撃等によって釣獲できるかを検討した(図1)。産卵床に対する執着度と駆除のしやすさを示すために、ルアーまで10cm以内に近づいた個体数と経過時間を記録した。

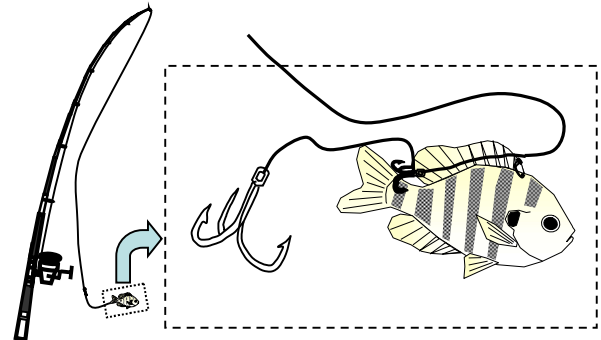


図1. オオクチバスを捕獲する釣り仕掛け
(ブルーギル型のルアーとボラかけ針)

産卵床は調査した14のうち12箇所の漁港で計159床が確認された。産卵のピークは水温が20℃を越えた5月下旬であった。確認された産卵親魚数は漁港によって大きく異なり、風波の影響を受けにくく、水面の波立ちが穏やかな漁港で多かった。オオクチバス親魚は雌雄あわせて184個体が確認された。このうち137個体についてルアーで釣獲を試みた結果、雄では37%、雌では22%が3分以内に釣獲可能であった。また、産卵床への執着は雌よりも雄で強く、産卵ステージで区分するとペアリング前、産卵中、産卵後の順に強かった。釣獲可能なオオクチバスの割合はペアリング前(12%)、産卵中(29%)、産卵後(61%)であった。

これらの結果から、ブルーギル型のルアーを用いた釣獲駆除は産卵後に卵を保護している雄親に対して用いると最も効果的と考えられた。

最後に

これらの研究結果と調査中に見聞きしたバサーや漁業者の実釣例やアドバイスを基に、ペアリング前、産卵中、産卵後の産卵ステージ毎に最も効果的と思われるオオクチバスの産卵親魚の釣獲方法を提案したい。